

青少年交流で日韓親善を

第6回韓日親善会議慶州で開く

『ロータリーの友』委員会
委員長 板橋 敏雄 (足利東)

第6回韓日親善会議は、1994年10月18日韓国・慶州市現代ホテルで、海兵隊軍楽隊のオープニング・コンサートにつづいて、同会議の議長呉在璟氏(元RI理事)の点鐘によって華やかに開会された。本会議が大変に力強く成功に導かれた原因の一つは、実に、韓国側373人、日本側401人合計774人という予想を上回る出席者の熱意によるものと思う。

第1本会議では、両国国旗の入場、両国国歌の斉唱、来賓の紹介につづいて、ビル・ハントレー国際ロータリー会長のメッセージが両国語で紹介された。さらにRI理事会より日本側服部禮次郎理事(代読)、韓国側宋仁相理事のごあいさつにつづいて、本会議の議長元RI理事呉在璟氏の歓迎の辞、日本側から日韓親善連絡委員長菅野多利雄元RI理事のあいさつがあって、日韓親善会議の意義がうたいあげられた。

しかし何といても、この第1本会議のハイライトは、駐韓日本国大使の山下新太郎氏の40分に及ぶ基調講演であった。「冷戦後の新たな国際秩序に向けた日韓の協力」副題として、両国国民の信頼関係はいかに形成されるのかという演題の下に、大使は明解に現在の日韓の間に存在する諸問題を説明され、この解決に不可欠の課題として指摘されたものが即、本親善会議の議題であったからである。大使は結論的に次のように強調されたのである。

戦後、日韓両国は、経済関係においても、緊密な度合いを年々深めてきているのに、今なお

青年層に対日警戒意識が残っているというデータがある。これを改善するために、「多元的善隣友好関係の増進」として青少年交流の一層の促進をはじめ、このロータリークラブ会議のような民間レベルの両国間知的交流が活性化されなければならないと結ばれたのであった。

午後7時から、800人の参加者が、10人単位の円卓を囲んでの晩さん会が開演されたが、日韓両国ロータリアンが胸襟を開いて、懇談する素晴らしい機会となった。

翌日19日9時より開催された第2本会議においては、「若い世代に聞く韓日親善の未来」というパネルディスカッションが注目を集めた。また、宋仁相RI理事の「アジアの未来を目指した韓日両国の新パートナーシップの構築」というテーマの基調講演は圧巻であった。

午後の第3本会議においてはロータリーの現況報告が両国の代表から報告された。さらに部門別会議としては、姉妹クラブ関係と青少年関係とが、それぞれ日本側2人韓国側2人のパネリストにより実績を踏まえた体験発表が行われ日韓の信頼関係構築に大きな示唆となった。

このように、今回の韓日親善会議は、クラブそして若者の交流の深化をテーマとして、計り知れない大成果をもたらしたが、その原因の一つは、韓国側委員会により準備された日韓語対訳による会議資料にあったと思う。韓国側ロータリアンに改めて感謝申し上げねばならない。

第2550地区(栃木)PG・塗料販売